

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	VENOM RECOIL		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル	
RG	2.470	△RG	0.036	●ピン	★PAP	✕CG	■バランスホール

テストボール：VENOM RECOIL

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：VENOM SHOCK PEARL

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

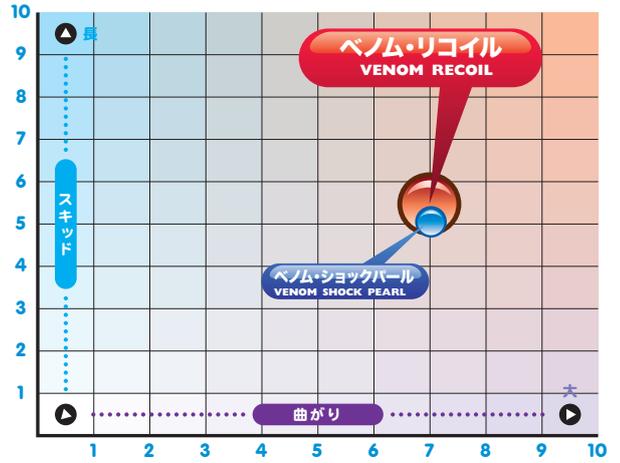
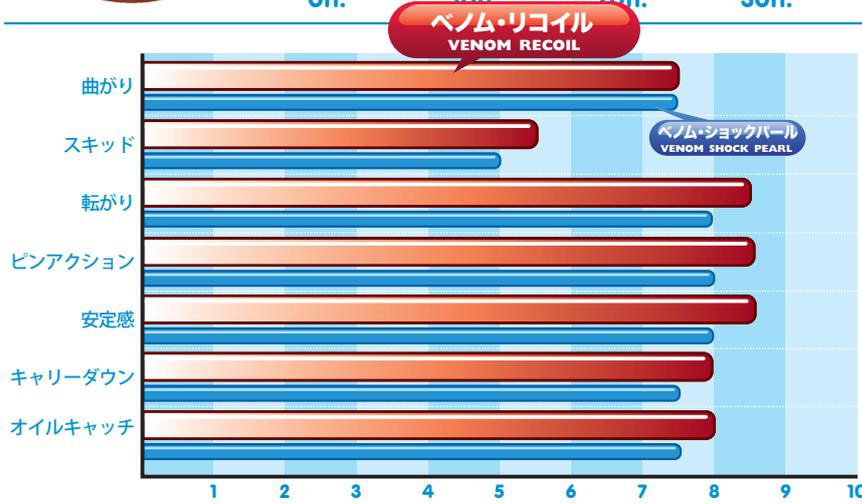
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

MOTIV社のVENOMシリーズと聞けば、ミディアムからミディアムライト領域で先でのキレ具合が特徴的なモデル。VENOM SHOCKが世界的に脚光を浴びたのもプライマル・レイジ、初代REVOLT同様、MOTIV社の伝説の始まりでした。今回のVENOM RECOILは7代目で、カバーストックにCoercion MFSを採用し、VENOMで初めてのCoercionリアクティブです。しかも歴代Gear CoreがVENOMの真骨頂でしたが、今回はGear APGというsymmetric Core(対称コア)からAsymmetric Core(非対称コア)へと変容させています。VENOM RECOILはCoercion MFS、Gear APGの非対称コア、4000 Grit LSSと今までにない組み合わせが満載ですので、様々な角度から検証しました。

まず第一印象はVENOMのミディアムライト領域を超えるキャッチと急激な向きの変わるバックエンドリアクションが特徴でした。CoercionのMFSですので、HFSよりは一步キャッチでは譲るものの、走りますがスベる感じが全くありません。それよりもプレーキが一気にかかってからの向きの変わり方が急激に出ますので、私の中では歴代VENOMで一番角が出ている印象に感じます。柔らかくキレるというイメージよりは角が出るイメージですので、MOTIVは新しいコアとカバーの組み合わせでVENOM RECOILにこのような性能を求めたのだと思います。キャッチといい、バックエンドといい、非常に高いレベルでマッチング出来ているのが印象深く、新たなポテンシャルと共にこのようなリアクションはMOTIVファンのみならず、垣間見たボウラーは魅了されるでしょう。それほど高いレベルで仕上がっていると感じました。以前FORZAが発売されたときに、MOTIVの意図とは違い、日本のボウラーは表記よりかなりのオイル量までをカバーできたボール印象があったと同様に、このVENOM RECOILも同様のパフォーマンスを感じて頂けるでしょう。

特記事項

今までのVENOMシリーズで一番のキャッチと動きのメリハリ感がポケットへの入射角を容易にさせます。私の中では今までのVENOMで一番使い勝手がよく、カバーとコアのマッチングは素晴らしいです。